

第4回 加賀ふるさと検定 上級試験問題

解答・解説編

1 宮地向山遺跡は旧石器時代の遺跡で、ここからは、玉髓や珪質岩などの硬い石材で作られた()や搔器などが見つかっている。

- ①石槍 ②尖頭器 ③石刃 ④礫器

正解は③です。 正解率 29.6%

宮地向山遺跡は、宮地町ムカイヤマの琵琶ヶ池付近から発見された、旧石器時代から縄文時代にかけての県内最古の遺跡で、今からおよそ13,000年以上前のものとされています。石刃は、石を強い力で打ちつけ、薄いナイフ状にして、動物の皮や肉を切ったりしたものと考えられています。石刃の他、搔器・石匙・頁状耳飾に草創期の縄文土器の破片が出土しています。

2 ()からは、無数の貝類や土器片、県内最古の人骨などが出土した。なお、土器が関西の影響を受けた北白川式土器であったことから、縄文早期の終わり頃から前期にかけての遺跡と推定される。

- ①柴山貝塚遺跡 ②新堀川遺跡 ③柴山水底貝塚遺跡 ④保賀遺跡

正解は③です。 正解率は 77.8%

柴山水底貝塚遺跡は、柴山洪積台地を背後に控えた柴山潟湖岸にあり、昭和39年柴山潟干拓工事の排水機場建設中に、湖底およそ6mのところから発見されました。約4mの層をなす貝塚から汽水性のヤマトシジミの他に、人骨・獣骨・土器片などが採集されました。

3 潮津上出遺跡からは、多数の縄文後期後半から晩期の土器片が多数出土した。また、流紋岩・黒曜石・オパール・瑪瑙・頁岩などを材質とする()が3千点余り発見され、他地域との幅広い文化交流があったことが考えられる。

- ①石鏃 ②石斧 ③石錘 ④石錐

正解は①です。 正解率は 11.1%

潮津上出遺跡は、現在の片山津中学校校地内、通称スワトン山で発見されました。昭和42年に調査され、弓矢の先端などに取り付けるやじり状の石鏃3000点余りが発見され、「石鏃遺跡」とも言われています。石質は流紋岩・黒曜石・オパール・瑪瑙・頁岩などで、遠隔地からのものもあり、他地域との文化交流を示す貴重な遺跡となっています。

4 「北陸の登呂遺跡」と称される猫橋遺跡からは、数多くの木製品や土器が出土した。また、土器の形式から、()文化圏との結びつきが強いことも判明した。

- ①関西 ②瀬戸内 ③山陰 ④九州

正解は③です。 正解率は 33.3%

猫橋遺跡からは、おびただしい木製品が出土し、稲作りを示す炭化した米粒や高床式倉庫跡、竪穴住居跡、さらには、形周溝墓も確認されました。こうした数々の遺稿や出土物から、すでに村を統率する首長が存在していたと考えられています。また、出土した土器の形から、山陰文化圏とのつながりが極めて強いことが分かりました。

5 分校カン山1号墳は全長およそ()mの前方後円墳で、その棺からは「鋸齒文縁方格規矩四神鏡」と称する南加賀最古の中国後漢時代の鏡が発見された。

- ①35 ②55 ③75 ④95

正解は①です。 正解率は 29.6%

分校前山(カン山)1号墳から出土した「鋸齒文縁方格規矩四獸鏡」と称する南加賀最古の中国後漢時

代の船載鏡は、狐山古墳の「画文帯神獸鏡」より古い鏡で、狐山古墳出現以前に大和朝廷の影響を受けていたことを物語っています。

6 ()は、南北朝期に、荘園の年貢の半分を武士に与えるという半済処分を受け、その結果、半分が富樫氏の守護領となり、有力庶流が入部した。

- ①山代庄 ②福田庄 ③富基庄 ④矢田庄

正解は①です。 正解率は 7.4%

山代庄は、南北朝期に守護富樫氏によって半済措置を受け、その半分以上を富樫氏とその土地を支配し、庶子の系統にあたる山代氏が入部しました。一方、半済方(領家分)は至徳2年(1385)までに幕府料所となり、長崎氏や畠山氏が知行権を入手しましたが、応永25年(1418)に北野天満宮に寄進されました。これに対して奉公衆の畠山政近が還付を幕府に訴えて紛糾しました。

7 応永21年、14世遊行上人()が潮津道場で法要を開いた時、源平合戦で討ち死にした斎藤実盛の霊があらわれたことで、上人が鎮魂したという。この話をもとに世阿弥が謡曲『実盛』を著した。

- ①智得 ②託阿 ③自空 ④太空

正解は④です。 正解率は 51.9%

潮津道場での法要に、源平合戦で討ち死にした斎藤実盛の霊があらわれたことで、14世遊行上人太空が卒塔婆を書いてこれを鎮魂し、結縁したといわれています。その卒塔婆が小松の多太神社に蔵されており、年号が康応2年(1390)となっていますが、諸記録から応永21年(1414)の出来事に間違いなく、『過去帳』にも14世遊行上人の時に往生したとして、「真阿弥陀仏〔斎藤実盛〕」と書かれています。

8 山田光教寺の2世顕誓が著した『^{ほごのうらがき}反古裏書』によれば、荻生願成寺・河崎専称寺・()・宮越仰西寺の4ヶ寺は、越前藤島の超勝寺が開創されたと考えられる応永14年以前から、加賀の本願寺派寺院であったという。

- ①新郷専光寺 ②出雲路毫撰寺 ③長崎称名寺 ④敷地空善寺

正解は③です。 正解率は 7.4%

山田光教寺2世顕誓は、蓮誓の3男で、蓮如の孫。兄蓮能が若くして死んだため父の後を継ぎましたが、享禄の錯乱で超勝寺側に敗れて越前に逃れ、破門・勲気の身となり、天正19年(1550)に許されました。『反古裏書』は永禄12年(1569)に著されたものですが、長崎称名寺の記述は誤りである可能性が高いと思われる。

9 弘治元年、越前の朝倉宗滴が一向一揆を潰滅させようと加賀へ大挙して侵入した。これは、同じ一揆勢を減ぼそうとしていた()との同盟に基づいた出陣であった。

- ①武田信玄 ②上杉謙信 ③織田信長 ④浅井長政

正解は②です。 正解率は 11.1%

朝倉氏は天文21年(1552)に越後の長尾景虎(上杉謙信)と同盟し、本願寺と甲斐の武田信玄との連合に対抗しようとした。本願寺としては、越中・能登・加賀の脅威である越後長尾氏への備えとして武田と結んだのですが、それが長尾氏の信濃侵入に呼応した朝倉氏の加賀侵入を呼び起こすことになりました。

10 永禄10年、越前一乗谷に滞在中の足利義昭の仲介で、一向一揆勢と朝倉氏との間で和睦が成立した。その結果、江沼郡の一揆方の柏野・松山両城と、朝倉氏方の()・檜屋・大聖寺の3城が破却された。

- ①南郷城 ②千足城 ③黒谷城 ④津葉城

正解は③です。 正解率は 14.8%

弘治元年(1555)朝倉宗滴の江沼侵入以後、10年余にわたって一向一揆と朝倉勢の抗争が続きました。

たが、永禄10年(1567)足利義昭の仲介により和睦が成立すると、一揆方の柏野・松山両城と、朝倉氏の管理下に置かれていた黒谷・檜屋・大聖寺の3城が破却され、北陸道の封鎖も解かれることになりました。

11 大聖寺城主溝口秀勝は、慶長3年4月に越前北庄城主()の越後(新潟県)春日山への移封に伴い、同新発田に移動した。

- ①柴田勝家 ②堀 秀治 ③小早川秀秋 ④丹羽長秀

正解は②です。 正解率は 55.6%

越前北庄城主堀秀治(丹羽長秀の後任、堀秀政の子)は、慶長3年(1598)4月に豊臣秀吉の命により越後(新潟県)春日山へ移封されました。この移封に伴い、堀秀治と与力関係にあった大聖寺城主溝口秀勝は同新発田に、小松城主村上頼勝は同本庄(現村上市)にそれぞれ移動しました。なお、この移動は同年正月の越後春日山城主上杉景勝の会津(福島県)移封に伴うものでした。

12 大聖寺城主の山口玄蕃宗永父子は、慶長5年8月3日に金沢城主前田利長と戦い、大聖寺城内で自決した。利長軍の中では、鐘ヶ丸の戦いで、特に()の家臣が多く戦死した。

- ①長 連龍 ②横山長知 ③太田長知 ④前田利政

正解は①です。 正解率は 70.4%

関ヶ原の戦いで東軍(徳川家康側)に与した金沢城主前田利長は、慶長5年(1600)8月3日に2万5000人の大軍をもって大聖寺城主山口玄蕃宗永父子の居城に攻め込みました。この大聖寺合戦では、1200人余の山口軍が僅か1日で敗戦し、800人余の家臣が討ち死にしました。利長軍の中では、鐘ヶ丸の戦いで長連龍の家臣が多く戦死しました。その家臣の墓は、いまも錦城中学校前の住宅地に「四墓」として残っています。

13 大聖寺藩祖前田利治は、万治3年4月 21 日に江戸で死去した。このとき、中沢久兵衛、小沢三郎兵衛、小栗権三郎の3人が殉死したが、小栗は5月2日に()で自害した。

- ①宗英寺 ②久法寺 ③全昌寺 ④寛慶寺

正解は②です。 正解率は 40.7%

大聖寺藩祖前田利治は、万治3年(1660)4月 21 日に江戸で死去しました。このとき、中沢久兵衛(35歳)、小沢三郎兵衛(49歳)、小栗権三郎(22歳)の3人が殉死(追腹)しました。小沢は4月 27 日に信州(長野県)善光寺に隣接する寛慶寺で、小沢は5月3日に全昌寺で、小栗は5月2日に久法寺でそれぞれ自害しました。彼らの墓は、いまも実性院にある初代藩主利治の墓の後方に立てられています。

14 大聖寺藩主2代前田利明は、万治3年8月に越中新川郡7か村と加賀藩領の能美郡馬場・島・串など、6か村()と交換した。

- ①4100石余 ②4200石余 ③4300石余 ④4400石余

正解は③です。 正解率は 22.2%

大聖寺藩主2代前田利明は、万治3年(1660)8月に越中新川郡7か村(目川・上野・入善・八幡・道市・青木・君島)分の4322石余と加賀能美郡6か村(馬場・島・串・日末・松崎・佐美村)分の4302石余とを交換しました。従来、越中新川郡の大聖寺藩領は、上記の7か村に吉原と櫛山新を加えた9か村と考えられてきましたが、吉原・櫛山新村は加賀藩領であることがわかりました。

15 大聖寺新田藩祖前田利昌は、宝永6年2月に上野寛永寺で行われた5代将軍徳川綱吉の法会において、御馳走役の大和柳本藩主()を殺害した。

- ①織田監物 ②織田信雄 ③織田信秀 ④織田秀信

正解は①です。 正解率は 81.5%

大聖寺新田藩祖前田利昌(3代利直の弟)は、宝永6年(1709)2月に上野寛永寺で行われた5代将軍徳川綱吉の法会において、他藩の4人とともに朝廷の使者をもてなす御馳走役を命じられました。ところが、利昌はこの法会が行われた2月 16 日に乱心し、同寺の顕性院で大和柳本藩主の織田秀親(監物)を殺害しました。そのため、利昌は同月 18 日に切腹となり、大聖寺新田藩も廃藩となりました。

16 大聖寺藩は、文化 10 年7月に串村甚四郎の茶問屋の独占体制を廃し、一時的に大聖寺町の()を茶問屋に任命した。

- ①吉田屋伝右衛門 ②大和屋七右衛門 ③矢田屋清右衛門 ④田中屋十左衛門

正解は④です。 正解率は 29.6%

串村甚四郎は代々大聖寺藩の茶問屋を務め、大聖寺町や村松村に下問屋を置いていました。甚四郎は毎年2月に口銭(手数料)を精算し、3分の2を藩に上納、残り3分の1を得ました。藩は文化 10 年(1813)7月に串村甚四郎の茶問屋の独占体制を廃し、一時的に大聖寺町の田中屋十左衛門を茶問屋に、吉田屋伝右衛門を茶頭取に任命しました。

17 大聖寺藩では、江戸前期から中田・長谷田・上原・塚谷村の「紙屋谷」で日常紙や御料紙を生産した。御料紙は中田村の大茂谷家や()で製造された。

- ①丸屋家 ②京屋家 ③角屋家 ④沢屋家

正解は③です。 正解率は 59.3%

大聖寺藩主2代前田利明は、延宝 4 年(1676)に中田村五郎兵衛と足軽の栗村茂右衛門を河北郡二俣村に派遣し、御料紙や日常紙の製法を習得させました。日常紙は、「紙屋谷」と呼ばれた中田・長谷田・上原・塚谷など4か村(土谷村を加え5か村)で製造されましたが、御前延紙・銭手形紙など御料紙は中田村の角屋家と大茂谷家で製造されました。

18 大聖寺藩の組付十村には、鋤役米(鋤米)という役料が支給された。鋤役米とは()~60歳の男子から米2升を徴収したものである。

- ①14歳 ②15歳 ③16歳 ④17歳

正解は②です。 正解率は 51.9%

大聖寺藩の十村(大庄屋)には、十村組を有する組付十村と、それを監視する目付十村(手振十村)の2種がありました。組付十村は役料として鋤役米が、目付十村は御切米が支給されました。鋤役米は15~60歳の男子から米2升を徴収したものです。十村は十村代官として租米・春秋夫銀・小物成銀・郡打銀などを徴収し、それぞれ手数料を得ました。

19 大聖寺藩主は、参勤交代で下街道を利用したとき、必ず金沢城下に宿泊して、金沢城へ出向き藩主や重臣に挨拶するとともに()や天徳院を参詣した。

- ①桃雲寺 ②松月寺 ③長国寺 ④宝円寺

正解率は④です。 正解率は 74.1%

大聖寺藩主の参勤交代には、金沢方面へ向かう中山道經由の下街道(131里)と福井方面へ向かう中山道經由の上街道(148里)、東海道經由の上街道(139里)の3コースがありました。下街道は距離が短いこと、全行程のうち加賀藩領が4分の1を占めていたことから最も多く利用されました。大聖寺藩主が下街道を通るときは、必ず金沢城下の旅籠に宿泊して、金沢城へ出向き重臣に挨拶するとともに加賀藩前田家の菩提寺である宝円寺や、珠姫を弔うために利常が創建した天徳院を参詣しました。

20 大聖寺藩領の北国街道には、慶長年間に橋駅・大聖寺駅・動橋駅・月津駅などの宿駅が置かれていた。当時、駅馬の数は()が最も少なかった。

- ①橋駅 ②大聖寺駅 ③動橋駅 ④月津駅

正解は②です。 正解率は 22.2%

大聖寺藩領の北国街道には、慶長年間(1596～1615)に橋駅・大聖寺駅・動橋駅・月津駅などの宿駅が置かれていました。当寺、駅馬は橋駅に17疋、大聖寺駅に11疋、動橋駅に14疋、月津駅に22疋が置かれていました。橋駅は、江戸後期に馬借の業務が大聖寺駅に移されたため衰退しました。なお、元禄8年(1695)頃と江戸末期には、一時的に作見駅も置かれました。

21 伊能忠敬ら測量隊8人は、享和3年6月24日から27日まで大聖寺藩領の沿岸を測量し、大聖寺町の()や松屋、片野村の肝煎宅、橋立村の因随寺などに宿泊した。

- ①大和屋 ②京屋 ③吉田屋 ④板屋

正解は④です。 正解率は 33.3%

伊能忠敬は享和3年(1803)2月25日に江戸を出立し、東海・北陸・佐渡を測量して、10月7日に江戸へ帰着するという第4次測量を行いました。忠敬ら測量隊8人は、同年6月24日に吉崎(本願寺かけ所泊)から大聖寺町に入り、同日に本町の板屋泊と松屋泊、25日に片野村の肝煎泊、26日に橋立村の因随寺(現福井別院橋立支院)泊をもって大聖寺藩領の海岸部を測量しました。

22 大聖寺藩主12代前田利義は、嘉永5年に西出源蔵を金沢野町に遣わし、吹屋の村山四郎兵衛に大砲の鑄造を命じた。大砲は資金不足のため()中3挺しか完成しなかった。

- ①21挺 ②23挺 ③25挺 ④27挺

正解は①です。 正解率は 33.3%

大聖寺藩主12代前田利義は、嘉永5年(1852)に西出源蔵を金沢野町に遣わし、吹屋の村山四郎兵衛に大砲の鑄造を命じました。大砲は資金不足のため21挺中3挺しか完成せず、残りの18挺は北前船主の久保彦兵衛をはじめ、西出孫左衛門・増田又右衛門・酒谷長平・西野小左衛門などの献金によって鑄造されました。

23 大聖寺藩主9代前田利之は、文政4年12月に加賀藩主12代()の願書により幕府から10万石の待遇が公認された。

- ①前田重教 ②前田齐広 ③前田治脩 ④前田齐泰

正解は②です。 正解率は 37.0%

大聖寺藩主9代前田利之は、文政4年(1821)12月に加賀藩主12代前田齐広の願書により幕府から10万石の待遇が公認されました。10万石の内訳は本高7万石・新田高1万石に、毎年、本藩から支給される米2万俵を加えたものです。しかし、幕府の朱印状は8万石で、本藩の支給米も毎年金300両に

すぎませんでした。

- 24 大聖寺藩の茶道は、藩祖前田利治が茶人の近江小室藩祖小堀遠州の弟子であったことや、3代前田利直が川端御亭(長流亭)を建造したことから遠州流と()が中心に広まった。
- ①千家流 ②南防流 ③藪内流 ④宗和流

正解は④です。 正解率は33.3%

大聖寺藩の茶道は、藩祖前田利治が近江小室藩祖で、茶人でもあった小堀遠州の直弟子であった関係で遠州流が普及しました。家老の村井主殿は、3代藩主前田利直の意を受けて、遠州作成の茶席図をもとに川端御亭(現長流亭)を建造したといわれています。大聖寺藩では、この遠州流と金森宗和がおこした宗和流が中心に広まりました。

- 25 明治4年、増税に不満をもつ農民たちが()の門前に集結し、大聖寺県の租税係などをしてきた役人たちの家を次々と打ち壊すという、いわゆる「みの虫一揆」が起きた。
- ①打越勝光寺 ②山代専称寺 ③大聖寺願成寺 ④動橋篠生寺

正解は①です。 正解率は74.1%

明治4年11月、増税に不満をもった農民たちが打越村の勝光寺門前に集結し、大聖寺県の租税係などをしてきた役人たちの家を次々と打ち壊しました。翌日には農民およそ千人が敷地村の端で青池大参事らに七か条の要求をつきつけました。大聖寺県はやむなく兵士を出動させ発砲した。これにより農民1人が死亡し数人が負傷しました。

- 26 明治11年7月、江沼郡大聖寺に郡役所が設置され、その郡役所のもとに、()の「戸長役場」が置かれた。
- ① 12ヶ所 ② 18ヶ所 ③ 23ヶ所 ④ 28ヶ所

正解は③です。 正解率は33.3%

明治11年7月「郡」が行政区画として公認され、大聖寺に江沼郡役所が設置され、12月には郡長が配置されました。また、郡のもとに、23ヶ所の「戸長役場」が置かれ、それぞれの戸長役場には「戸長」を配置し行政事務を行わせました。

- 27 「加州松島社」は、明治16年、製造した鉛筆を()万国博覧会に出品し、第一級第一等賞を獲得した。
- ①ウィーン ②ロンドン ③アムステルダム ④パリ

正解は③です。 正解率は59.3%

「加州松島社」は、旧大聖寺藩士飛鳥井清が柿沢理平を工場長にして明治10年に創業した鉛筆製造会社です。柿沢理平の努力により、明治16年のオランダで開かれたアムステルダム万国博覧会に出品し、第一級第一等賞を獲得しました。これにより、松島社の鉛筆が舶来品に劣らない良質なものであるとの評価を得たとされています。

- 28 大津事件でロシア皇太子ニコライの命を救った江沼郡出身の北ヶ市市太郎は、事件後、ロシア政府から当時の金額で()円の報奨金が与えられた。
- ① 200 ② 800 ③ 1,200 ④ 2,500

正解は④です。 正解率は29.6%

明治24年(1891)年の大津事件で、皇太子ニコライの命を救ったことにより、北ケ市市太郎ともう1人の車夫、向畑治三郎は、救国の英雄として政府から年金36円が支給されただけでなく、ロシア政府から当時の金額で2500円の報奨金と1000円の終身年金が与えられました。

29 片山津温泉は、明治15年、石川郡観音堂村(現在の金沢市大野町)から井戸掘りの名人であった()を招き、特殊な工法をもちいて掘削し、湯量を安定的に確保することに成功した。

- ① 近藤幸即 ② 広瀬次郎七 ③ 森仁平 ④ 藤沢長三郎

正解は③です。 正解率は100%

明治9年(1876)に、当時、県の役人であった近藤幸即らが柴山瀉で大規模な埋め立て工事を行ない、その結果つくられた人工島に橋が架けられ、ようやく人々が温泉に入浴できるようになりました。明治15年(1882)6月28日には、石川郡観音堂村から井戸掘りの森仁平を招き、特殊な工法で掘削し、湯量を確保することに成功しました。

30 昭和16年から20年までの太平洋戦争で犠牲となった石川県関係の戦没者は2万人を超えているが、このうち江沼郡の戦没者は()人であった。

- ① 845 ② 1,223 ③ 1,536 ④ 2,455

正解は③です。 正解率は55.6%

昭和16年(1941)12月の日米開戦から同20年の敗戦までの間、太平洋戦争で犠牲となった石川県関係の戦没者は2万2788人という大きな数となっており、このうち江沼郡出身の戦没者は1,536人とされています。(『加賀市史(通史下巻)』より)

31 明治25年の江沼郡役所の歳出を見ると、役場費・土木費・教育費・衛生費・勸業費など合計39,204円で、このうち()費が最も多く、全体の46%を占めていた。

- ① 土木 ② 教育 ③ 衛生 ④ 勸業

正解は②です。 正解率は55.6%

明治25年の江沼郡全体の予算規模を見ると、歳入は国庫交付金や県税交付金、町村税、郡費などで合計約4万819円。一方、歳出は役場費、土木費、教育費、衛生費、救助費、警備費、勸業費などで、合計約3万9204円。このうち、小学校や夜学校の経営などに充当する教育費は歳出全体の約46%を占めて、もっとも比率が高いものとなっています。

32 日常生活が電化する以前の時代、各家庭では、バンドコと称する用具が()で使われた。

- ① 居間 ② 寝床 ③ 座敷 ④ 台所

正解は②です。 正解率は63.0%

昭和30年代までは、寒い日の夜は、着物のように袖がある「夜着」と呼ぶ掛布団を着て寝たり、「バンドコ」と呼ばれた炬燵や湯たんぽで暖をとって寝ました。バンドコは、瓦に似た土製の焼き物の置炬燵で、中に炭火を入れる火床がありました。やぐらの下に入れて、布団をかけて使うこともあったようです。

33 山代温泉の菖蒲湯祭りは、若者達が菖蒲神輿を引き回す、活気あふれる祭りである。その菖蒲神輿の総重量はおおよそ()kgだといわれている。

- ① 150 ② 230 ③ 350 ④ 540

正解は③です。 正解率は70.4%

祭りは6月4日夕刻、薬王院境内での「祈願祭」から始まります。修験者たちによって、人々の願い事が書かれた「護摩木」を燃やします。このあと、菖蒲御輿を引き回す「入湯式」へと移っていきます。菖蒲御輿には、台棒の上に菖蒲を詰めた俵を6俵、下に2俵の計8俵を力綱で取り付けます。総重量は約350kgにもなります。これに約30mの引綱をつけ、およそ200人の、赤白の帷子・赤はちまき・白足袋・姿の青年たちによって引き回されます。

34 昭和30年代頃まで、雨の日や強い日照りのときは、イグサを原料とした()を着用する人が多くみられた。

- ①被り莫産 ②着莫産 ③蛇の目莫産 ④背当て莫産

正解は②です。 正解率は40.7%

雨の日や雪の日は番傘・蓑笠・ござ帽子・檜・笠(日照りの日も)にカケゴザ・キゴザ(着莫産)などを着用しました。また、天気の良い日は下駄・草履、雨の日は足駄を履きました。寒い冬は素・足に足・袋を履いてから下駄・足駄・ふかぐつなどを履きました

35 昭和42年1月、大日山を登山中の石川県ユース hostel 協会に所属する()山岳会の6人が遭難し、死亡した。これをきっかけに、大日山に避難小屋がつけられた。

- ①はやぶさ ②かもしか ③うりぼう ④しろうさぎ

正解は②です。 正解率は63.0%

大日山は、富士写ヶ岳、鞍掛山とともに江沼三山の一つで、標高1,368mと加賀市で最も高い山として知られています。大日山では、昭和42年に大きな遭難事故がありました。この年の1月1日から石川県ユース hostel 協会の「かもしか山岳会」のメンバー6人が大日山に登っていましたが、3日たっても戻らないということで、大騒ぎとなりました。結局、6人全員が死亡するという痛ましい事故となり、これをきっかけに、大日山に避難小屋がつけられたといわれています。

36 柴山潟は、その昔、入り江であったところで、今は湖沼となっている。このような湖は()と呼ばれている。

- ①海進湖 ②海跡湖 ③海退湖 ④残留湖

正解は②です。 正解率は81.5%

約6000年前の縄文時代は今より海面が2~3m高かったといわれ(縄文海進)、江沼平野も、この時代は入り江や浅い海でした。その後、大聖寺川や動橋川などによって運ばれてきた土や砂が堆積して平野になったもので、こうした平野は「沖積平野」と呼ばれています。柴山潟、木場潟、今江潟などは、土や砂が堆積せずに残った部分で、これらの湖は「海跡湖」と呼ばれています。

37 昭和43年に指定された「越前加賀海岸国定公園」は、加賀市の海岸部から福井県の()までの海岸部を、その範囲としている。

- ①坂井市 ②福井市 ③敦賀市 ④小浜市

正解は③です。 正解率は66.7%

加賀市の海岸部から福井県敦賀市の海岸部までのおよそ100kmの海岸線は、昭和43年(1968)に「越前加賀海岸国定公園」に指定され、貴重な自然資源が多く残されています。特に、この間における加賀市の海岸部は、柴山潟をはじめ、尼御前岬や加佐ノ岬、鹿島の森などの景勝地をはじめ、ラムサール条約登録湿地の片野鴨池など貴重な自然資源が数多く残っています。また、塩屋海岸から片野海岸にかけての砂丘地には貴重な海浜植物を見ることができます。

38 まさえすみあかてばこ 蒔絵角赤手筥は、2代将軍徳川秀忠の2女で、加賀藩3代藩主前田利常の正室珠姫が、菅生石部神社に寄進したもので、現在、国指定文化財となっている。その華やかな意匠や技法に()の豪華な気風を見ることができる。

- ①鎌倉時代 ②南北朝時代 ③室町時代 ④桃山時代

正解は④です。 正解率は 66.7%

蒔絵角赤手筥は、2代将軍徳川秀忠の2女珠姫が加賀藩3代藩主前田利常のもとに輿入れした際、持参した婚礼調度と伝えられ、元和5年(1619)、信仰していた菅生石部神社の祭礼にあたり寄進したものです。手筥の構造は、かぶせ蓋で、梨子地に金蒔絵で菊桐紋を散らし、残りの口縁部分には素地の上に布を張り、直接珠漆を塗ってその布目をあらわす「角赤」の様式をとり、その華やかな意匠や技法は桃山時代以来の豪華な気風を伝えています。

39 おおきまちてんのうしんかんごえいそう 正親町天皇宸翰御詠草は、永禄4年8月の夜の歌会において、正親町天皇が「閑見月」の題で詠んだ歌の直筆草稿で、和歌の師である()に添削させたものである。

- ①冷泉為広 ②三条西公条 ③三条西実隆 ④冷泉政為

正解は②です。 正解率は 25.9%

正親町天皇の和歌の師匠は、二条流の飯尾宗祇・三条西実隆という正統な流れを伝える歌人三条西公条(さんじょうにし きんえだ)です。永禄4年(1561)8月15夜の歌会で「閑見月」の題で詠んだ「夜とともにおかふかうちは空の月しつかにすめる閑起りをそ見る」の歌の草稿で、「称名院合点」と記されていることから添削させたことがわかります。

40 大聖寺鉄砲町の専称寺が所蔵する「絹本著色親鸞聖人絵伝」は、その裏書から、宝徳元年に本願寺7世存如上人から山代庄河崎の専称寺の()に下付したものと判明した。

- ①親光 ②真光 ③祐信 ④仏乗

正解は②です。 正解率は 70.4%

専称寺の親鸞絵伝は、裏書から宝徳元年(1449)に本願寺7世存如上人から同寺の真光に下付されたもので、一般に四幅絵伝は真宗教団の発展に伴い8世蓮如上人の活躍以降、多く下付されるようになりますが、この絵伝は時代的にそれ以前のもので、江沼郡における蓮如以前の真宗教団の活動を示す歴史資料として、また美術史上においても貴重です。

41 大聖寺藩の儒学者で、わが国の考証学派の代表として評価されている大田錦城の著作の中では、論語など儒教の古典籍について記した()が有名である。

- ①鳳鳴集 ②疑問録 ③尚書紀聞 ④九経談

正解は④です。 正解率は 88.9%

大田錦城は、大聖寺藩医樫田幻覚の7男に生まれましたが医に甘んぜず、京都の皆川淇園や江戸の山本北山に学びました。しかしながら、いずれも意に満たず、古人を師として独学刻苦し、代表的な考証学者になり、吉田藩や加賀藩に仕えました。その著『九経談』は、清人がわざわざ長崎で買い求めて帰ったという話が伝わっています。

42 加賀市八日市町の「都もどり地蔵」が安置されているところは、平安時代末期の歌人西行が、同行の西住と別れたとする場所で、その後、西住は()近くの村に住んだと言われている。

- ①杉水 ②四十九院 ③荒谷 ④大土

正解は①です。 正解率は37.0%

平安時代末期の代表的歌人である西行法師が、弟子の西住とともに諸国行脚をおこなった際、加賀国を訪れ大聖寺川支流の杉ノ水川近くに滞在したと伝えられています。やがて、都へ戻る西行と、杉ノ水川近くに定住することになった西住は、別かれることとなります。「もろともに ながめながめて 秋のかぜ ひとりにならんことぞかなしき」は、西行との別れに際して西住が詠んだ歌と伝えられています。

43 瀬越町白山神社には、北陸3県で最多の()の船絵馬が奉納されている。

- ①15面 ②35面 ③53面 ④98面

正解は③です。 正解率は85.2%

瀬越町は、廣海家大家家など、加賀市を代表する北前船主たちが住む町として栄えました。北前船ゆかりの地では、船主や船乗りが航海の安全祈願や無事帰郷できたことを神に感謝し、船絵馬を奉納する習慣があり、瀬越町白山神社には一社に奉納された船絵馬としては、北陸3県で最多の53面が奉納されており、現在、加賀市の指定文化財となっています。

44 橋立町の旧北前船主、酒谷長兵衛家で使われていた仏壇は、彫刻、金工、蒔絵などの製作技術に優れ、()仏壇の最高峰のものと言われている。

- ①七尾 ②金沢 ③美川 ④三国

正解は④です。 正解率は77.8%

三国仏壇・(冬仏壇・夏仏壇)橋立町の旧北前船主酒谷長兵衛家で使われていた大小2基の仏壇。2基とも福井県三国の名工親子三代にわたる合作で、彫刻・金工・蒔絵などの製作技術に優れ、三国仏壇の最高峰を示すものといえます。大きい方は「冬仏壇」とよばれ、主人が帰省しているときや法事などの際に使用しました。また、小さい方は「夏仏壇」と呼び、普段は主人が北前船経営のため不在であり、そうしたときは、家族はこの小さい方の仏壇を主に使用しました。橋立周辺の北前船主の家では、大小2基の仏壇を備えています。そうした事例は全国的には珍しいものです。

45 鉄の打ち出しの名人山田宗美が制作した「狛犬大置物」は、宗美の代表作となっており、明治42年に開催された()に出品し、名誉大賞を受賞した。

- ①大阪万博 ②ニューヨーク博覧会 ③日英博覧会 ④パリ万博

正解は③です。 正解率は25.9%

大聖寺藩に仕える刀鍛冶師の家に生まれた山田宗・美は、鉄打出しの名人でした。この狛犬大置物は、明治42年(1909)開催の日英博覧会に出品され、名誉大賞を受賞した宗美の代表作で、高さ122cmの大きなものです。宗美があみだした1枚の鉄板から溶接加工を一切使わず、金槌を使って精巧な立体造形を打ち出す鋸起法は、他の工芸家が真似のできない高度な技術とされ、近代日本の美術工芸に偉大な足跡を残しました。

46 松尾芭蕉は、元禄2年7月に「奥の細道」の旅の途中、山中温泉の湯宿泉屋に8日間逗留した。このとき、泉屋の当主久米助は()であった。

- ①10歳 ②12歳 ③14歳 ④16歳

正解は③です。 正解率は70.4%

松尾芭蕉は、元禄2年(1689)7月(新暦9月)に「奥の細道」の旅の途中、山中温泉の湯宿泉屋に8日間(7月27日～8月5日)逗留しました。このとき、泉屋の当主久米助はまだ14歳の少年でしたが、芭

蕉から自号「桃青」の一字をとった「桃妖」の号が与えられました。桃妖は芭蕉の期待に応え、のちに北枝とともに加賀俳壇の発展に寄与しました。

- 47 大聖寺藩士の渡辺卯三郎は初め金沢の蘭医黒川良安に学び、さらに大坂の緒方洪庵の()
に入門し、その7代塾頭を務めた。その後、卯三郎は金沢病院大聖寺出張所の顧問となった。
①適塾 ②古義堂 ③鳴滝塾 ④懐徳堂

正解は①です。 正解率は92.6%

大聖寺藩士の渡辺卯三郎は初め金沢の黒川良安に、また丸岡藩医の橋本文範に蘭学を学び、さらに大坂の緒方洪庵の適々齋塾(適塾)に入門し、その7代塾頭を務めました。卯三郎は、師洪庵に願い出て約1年間長崎に留学しました。その後、卯三郎は明治13年(1880)10月の金沢病院大聖寺出張所(のち江沼病院)の開設に際し、その顧問となりました。

- 48 大聖寺藩出身の絵師では、加賀藩の御用絵師を務めた佐々木泉景をはじめ、小原文英・山口梅園・小島春晁などが活躍した。佐々木泉景の作品では、()所蔵の「群鹿図」が有名である。
①全昌寺 ②菅生神社 ③実性院 ④山下神社

正解は③です。 正解率は74.1%

大聖寺藩の絵師では、加賀藩の御用絵師を務めた佐々木泉景をはじめ、小原文英・山口梅園・東方蒙斎・小島春晁などが活躍しました。佐々木泉景は享和元年(1801)に禁裏御用を勤め、翌年に法橋位に叙せられ、文化4年(1807)から加賀藩御用(加賀藩主11代前田治脩の屏風・衝立)を努めました。泉景の代表作品には、実性院所蔵の「紙本金地著色群鹿図屏風」があります。

- 49 大聖寺藩主()は、財政逼迫を配慮せず遊芸にふけたため、正徳2年8月に領内全域にわたる正徳一揆が起こった。
①前田利直 ②前田利章 ③前田利道 ④前田利精

正解は②です。 正解率は37.0%

歴代の大聖寺藩主では、藩祖利治と2代利明を除けば、顕著な業績を残した藩主はいなかったようです。特に、4代利章は財政逼迫を配慮せず、正徳2年(1712)8月に正徳一揆が起こりました。利章は、加賀藩第5代綱紀の4男で、大聖寺藩の3代藩主、利直が死去したことで、利直の嗣子となって家督を継ぎました。この頃より、大聖寺藩は財政的に疲弊していましたが、真剣な対応策をとらなかったことで、年貢米の取り立てなどに不満をもつ農民たちによる大きな一揆にまで発展しました。

- 50 大聖寺藩士の()は折衷学派の竹内福水に学んだ後、江戸で安井息軒、京都で平田篤胤らと交わった。天保期には、大聖寺藩の学問所に出仕し、のち、藩校の会頭となった。
①河野通英 ②東方祖山 ③大田錦城 ④田辺明庵

正解は④です。 正解率は3.7%

田辺明庵は大聖寺藩士田辺権六の3男で、はじめ輅三郎と名乗りました。明庵は号。竹内福水に儒学を学び、早くからその才を知られました。天保年間(1830~44)より藩学問所に出仕、安政年間(1854~60)には藩校会頭に選任されました。廃藩後も家塾を開き、漢詩の実力は当時日本有数と評されました。墓所は久法寺。錦城山下には遺徳碑があります。

51 加賀市片山津温泉出身の物理学者中谷宇吉郎博士は、世界ではじめて人工雪の結晶をつくることに成功し、昭和16年に()を受賞した。

- ①ノーベル物理学賞 ②日本芸術院賞 ③日本学士院賞 ④日本国際賞

正解は③です。 正解率は59.3%

中谷宇吉郎は、昭和11年、世界ではじめて人工雪の製作に成功しました。また、雪のさまざまな形の結晶ができる条件をあきらかにした中谷ダイヤグラムを発表。こうした功績が認められ、昭和16年、日本の学術賞では最も権威があるとされる日本学士院賞を受賞しました。

52 山中温泉今立町出身の軍人、辻政信は昭和36年、参議院議員在任中に東南アジア視察のために出国し、()で行方不明となった。

- ①インド ②ラオス ③ネパール ④カンボジア

正解は②です。 正解率は74.1%

陸軍大佐辻政信は、戦後、戦犯容疑を受けたため地下に潜伏。その体験を綴った『潜行三千里』は当時、ベストセラーとなりました。その後、衆議院議員4期、参議院議員1期を務め、昭和36年に東南アジア視察のために出国し、ラオスで行方不明となりました。同43年7月に戸籍上の死亡扱いとなっています

53 加賀市大聖寺出身の衆議院議員竹田儀一は、()内閣のときに厚生大臣となった。

- ①片山 哲 ②吉田 茂 ③芦田 均 ④石橋湛山

正解は③です。 正解率は37.0%

竹田義一は、京都大学法学部を卒業後、鈴木商店を経て弁護士となり、さらに衆議院議員となりました。その後、実業界に転身し京都工作機械株式会社や大聖寺工作所、大宮航空工業株式会社などを創設しました。昭和22年日本民主党を結成し初代幹事長に、翌23年芦田均内閣のときの厚生大臣として入閣しました。

54 大聖寺出身の考古学者三森定男は、昭和20年頃、太平洋戦争のために大聖寺に疎開していた際、()を発行した。

- ①聖城公論 ②北陽新聞 ③江沼新聞 ④錦城新聞

正解は②です。 正解率は40.7%

三森定男は、昭和4年、京都帝国大学文学部史学科を卒業。同8年には立命館大学文学部(国漢)にも入学し、考古学研究会を創立した。昭和20年の空襲で大聖寺に疎開し、この間「北陽新聞」を発行しました。昭和27年には札幌の北海学園大学教授となった。著書に『加賀名跡誌』などがあります。

55 加賀市橋立町出身の哲学者木村素衛は、京都帝国大学の教授時代、()を中心としたドイツ観念論を研究し、教育哲学の体系化を行なったことで知られる。

- ①フヒテ ②カント ③ヘーゲル ④ニーチェ

正解は①です。 正解率は37.0%

哲学者木村素衛は、京都帝国大学を卒業後、昭和15年に京都帝国大学の教授となりました。特に、フヒテを中心としたドイツ観念論を研究し、教育哲学の体系化を行ないました。その後、信濃教育会の依頼により、信州各地で数多くの講演や講義をおこなったことで、現在も、上田・松本・豊科の3か所に木村の記念碑が建立されています。

- 56 日本最初のオフセット印刷機やグラビア印刷機などを発明したことで知られる浜田初次郎は、加賀市()の出身である。
- ①保賀町 ②曾宇町 ③潮津町 ④小塩辻町

正解は②です。 正解率は37.0%

浜田初次郎は、明治7年、曾宇村(現加賀市曾宇町)の河島家で生まれました。一家が東京に引っ越したことで、東京の鉄工所で働きながら、東京高等工業補習学校夜間部で学びました。その後、アメリカの印刷機を視察し、大正10年「浜田印刷機製造所」を設立し、日本で最初のアルミニウム印刷機やオフセット印刷機・グラビア輪転機などを開発しました。

- 57 加賀市は北陸最大のブロッコリーの産地となっており、JA加賀では、平成28年2月に、ブロッコリー販売額()突破記念式典を開いた。
- ①8千万円 ②1億円 ③1億5千万円 ④2億円

正解は④です。 正解率は25.9%

JA加賀では、平成27年度、39戸の農家がブロッコリーを82,5ha作付けし、約110,000ケースを北陸・関西市場へ出荷しました。各市場からは品質面において高い評価を受け、販売額が昨年2億8千万円を達成しました。平成28年2月、JA加賀では、山代温泉の旅館で、これを記念し「ブロッコリー部会販売高2億円突破記念式典」を盛大に開催しました。

- 58 2代目新家熊吉は、国産による高性能チェーンの製造を決意し、昭和8年に、現在の大同工業の前身にあたる()チエン株式会社を設立した。
- ①国益 ②大聖寺 ③江沼 ④報国

正解は①です。 正解率は81.5%

2代目新家熊吉は高性能チェーンの製造に踏み切り、昭和8年、「国益チエン(株)」を設立しました。その後、チェーン市場の安定を目的に、「朝日チエン(株)」「加賀チエン(株)」の2社と対等合併して、ここに「大同チエン(株)」が発足しました。

- 59 明治13年「大聖寺商法会議所」が設立され、その初代会頭は()であったことが昭和初年の新聞「聖城公論」に書かれている。
- ①石川 嶂 ②前田 幹 ③大沢十次郎 ④前田利鬯

正解は①です。 正解率は85.2%

大聖寺で発刊されていた昭和初年の新聞「聖城公論」によれば、明治13年に「大聖寺商法会議所」が設立され、初代会頭に石川嶂が就いたとあります。また、総議員には、前田幹・河崎時・梅田五月・清水孝平・飛鳥井清・清水惣八・山田長三郎など大聖寺を中心とした実業家や政治家など100名余りで構成されていることが記録されています。

60 平成25年現在の統計によれば、かが森林組合加賀支所が管轄する加賀山中地域の私有林の面積は19,796 ha であり、組合員の数()人となっている。
①482 ②838 ③1,108 ④1,585

正解は④です。 正解率は11.1%

平成25年度における、かが森林組合加賀支所が管轄する加賀山中地域の私有林の面積は19,796 ha であり、組合員数は1,585 人となっています。なお、個人で林業経営する山林所有者はほとんど見られず、枝打ちや間伐・植林作業の多くは森林組合に業務委託しています。